学校番号	104

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	日本史探究　流れがわかる日本史ノート（山川出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史への興味、関心を持つ。
・歴史的なものの見方、考え方を身につけようとする姿勢で学ぶ。
・世界史的視野で日本の歴史を捉え、近現代史や現代社会の諸問題に対する理解に繋げる。

2　学習の到達目標

・問題演習を通してこれまで学習してきた内容についての理解を深め、日本史に関する通史的な知識を身に付ける。
・身に付けた知識を活用して、世界史的視野をもって多角的に歴史事項を考察できる歴史的思考力を養う。
・歴史に学ぶ姿勢を培い、今日の国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
・世界における日本の歴史に対する意識・関心と問題意識を高め、主体的に学ぶ姿勢を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日本史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	歴史的事柄について時代背景を踏まえて考察し、客観的・公正に判断して、自分の主体的意見を構築し適切に表現する力をもつ。	日本史の展開に関わる諸事象についての学習を通して、よりよい社会の実現を視野に入れ、自ら発見した課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される社会の構成員としての自覚や、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	近世	＜近世の幕開け＞ ・織豊政権と桃山文化 ＜幕藩体制の成立と展開＞ ・幕藩体制の成立と社会の構造 ・幕政の安定と経済の発展 ・寛永期の文化と元禄文化 ＜幕藩体制の動揺＞ ・幕政の改革と衰退 ・宝暦・天明期の文化と化政文化	a:織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解する。 b:国際情勢の変化と影響などに着目して。幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現できる。 c:幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査 問題演習	定期考査 レポート 提出課題	レポート 提出課題
	近代	＜近世から近代へ＞ ・開国と幕府の滅亡 ＜近代国家の成立＞ ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と条約改正 ＜近代国家の展開＞ ・日清・日露戦争と国際関係 ・第一次世界大戦とワシントン体制 ＜近代の産業と生活＞ ・近代産業の発達と社会運動 ・近代文化の発達と大衆文化の誕生 ＜恐慌と第二次世界大戦＞ ・恐慌の時代と軍部の台頭 ・第二次世界大戦	a:諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解する。 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解する。 b:近代における各時期の貿易の変遷から、その課題が何であったのかを考察し、日本の産業について仮説を表現している。 大戦中の日本の動向をふまえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 c:日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究している。 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究している。	定期考査 問題演習	定期考査 レポート 提出課題	レポート 提出課題

2	現代	＜占領下の日本＞ ・占領下の改革と冷戦の影響 ＜高度成長の時代＞ ・55 年体制下の高度成長 ＜激動する世界と日本＞ ・経済大国から社会の停滞へ	a:占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、日本の主権回復の意義について理解する。 b:戦後の外交事案がもたらした課題を多面的に考察し、表現している。日本の経済復興や高度成長を国際関係と関連させて考察し、その結果を表現している。 c:戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて主体的に追究しようとしている。	定期考査 問題演習	定期考査 レポート 提出課題	レポート 提出課題
	原始・古代	＜日本文化のあけぼの＞ ・文化の始まりと農耕社会の成立 ＜古墳とヤマト政権＞ ・古墳文化とヤマト政権・飛鳥の朝廷 ＜律令国家の形成＞ ・律令国家への道 ・平城京の時代と律令期の文化 ・律令国家の変容 ＜貴族政治の展開＞ ・摂関政治と国風文化 ・地方政治の展開と武士	a:国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色について理解する。 b:奈良時代の政治や平安初期の政治改革との比較を通じて、摂関政治の特色について考察している。 c:隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを主体的に考察している。	定期考査 問題演習	定期考査 レポート 提出課題	レポート 提出課題
3	中世	＜院政と武士の躍進＞ ・院政と平氏政権 ＜武家政権の成立＞ ・鎌倉幕府の成立と武士の社会 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 ＜武家社会の成長＞ ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場	a:承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取って理解する。 b:自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 c:中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを設定し、追究しようとしている。	定期考査 問題演習	定期考査 レポート 提出課題	レポート 提出課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度